

哀 悼

平成24年度総会案内の返信ハガキ・その他により、次の方たちのご逝去の連絡がありましたので、ご報告いたします。

ご逝去者	卒年科	ご逝去日
小野寺繁郎	昭和17年電気科	平成24年7月22日
大友 正志	昭和18年冶金科	平成24年7月21日
田口昭一郎	昭和21年建築科	平成22年
石垣 誠一	昭和21年電気科	平成23年
石塚 久雄	昭和22年冶金科	平成23年10月3日
川越 勝彦	昭和29年機械科	平成21年2月
末木 英雄	昭和29年電気科	平成23年11月
加賀谷誠一	昭和31年機械科	平成21年
高橋 光雄	昭和34年建築科	平成19年3月2日
富岡 陸男	昭和34年採鉱科	平成25年7月7日
西村 寛治	昭和35年工業科学科	平成21年
小玉 幸雄	昭和35年採鉱科	平成20年12月

心よりご冥福をお祈りいたします。



編集後記

前加賀谷健治(S36E)編集長からバトンタッチを受けて、今回の21号が最初の会報です。

20号までは寄稿記事が主でしたが、今回の号からは寄稿記事だけではなく、編集局が発信する「タロンペ」コーナーを新設しました。タロンペはツララのことで、つながりながら成長します。つながるイメージから新コーナーの命名をタロンペとしました。東京秋工会の皆さんをつなぐ糸のコーナにしたいとの思いからです。まだまだ誕生したばかりのコーナですが、皆様の支援で成長させていきたいと思っています。

編集長 嶋峨良平(S43E)

「いまだに同窓会報など作っているの?」といわれます。私も東京秋工会の幹事になる以前は、会報が届いても後で読もうと封も切らないこともあります。内容がおきまりの会長挨拶から母校の出来事、あったこともない会員の仕事や趣味の記事など興味が湧きませんでした。縁あってKANASAの編集に関わり全記事に目を通さざるを得なくなり、年代は異なっても秋田の同じ高校で人生の最も多感な時代を過ごした同窓会員それぞれの人生感や、いまだに故郷と母校に寄せる思いに触れるにつれ、これまでの会報に対する先入観が変わりました。時代の変化に伴い、会報の提供形態など次第に変わらざるを得ないとしても、KANASAは「永久に不滅です」といきたいところです。

副編集長 赤川 均(S41E)

今年も又多くの皆様から賛助広告をいただきました。毎回お忙しいところ宣伝効果を度外視した善意に心から感謝しております。1人でも多くの同窓生に見てもらえる会報作りが善意に報いることと思っております。各企業様の益々のご発展をお祈りいたしまして広告募集責任者として一言御礼を申し上げます。ぜひ総会にもご出席いただき懇親を深めさせていただければうれしく思います。

副編集長 伊藤幹夫(S46A)

新コーナーの「タロンペ」、自分の出身地は大館市。タロンペはあまり馴染みがありません。しかし、忘れている秋田弁を思い起こすコーナーとして楽しみがあります。

副編集長 下總 勉(S47A)

一昨年、4年ぶりに会報の制作に復帰、それから早2年(2号)、時間が過ぎるのはなんと早いものかと、今さらながらに感じています。昨年の20号が一区切りのものとすれば、今21号は新たな一步を踏み出すもの……という風に考えてはいるのですが、皆さんにはどのように映ったでしょうか。嶋峨新編集長の下、皆さんにより喜んでいただけるKANASAになるよう、もう一踏んばりしてみようと、思っている次第です。

副編集長 船木一美(S48M)

